

社会福祉法人廿日市市社会福祉協議会

平成 29 年度 事業報告

はじめに

近年我が国においては、人口急減と、それに伴う少子化、過疎高齢化、世帯の縮小・単身化、地域コミュニティのつながりの希薄化と共に、そこに発生するあらゆる世代の孤立や孤独の問題が見られます。

これらの急速な時代変化に対して、国においては、地域包括ケアシステムの実現、生活困窮者自立支援法の施行、地域共生社会実現本部（我が事まると）の設置、社会福祉法人改革、まち・ひと・しごと創生法（地方創生）など、多方面からの「地域づくり」をすすめており、近年の地域福祉を取り巻く政策の動きは、現場を置き去りにするほどのスピード感で変化・変革しています。

廿日市市社協では、これまで推進してきた地域福祉と、今求められる「地域づくり」をどのように関連付け、実践を発展させていく必要があるかを考えながら、平成27年度に廿日市市地域福祉計画と同時に策定した廿日市市社会福祉協議会地域福祉活動計画を連動させ、『地域から頼られ、地域の願いに応えられる社協』を目指し、事業を展開しました。

平成 29 年度 の 取組み の 評価

次の4点の基本方針に基づいて、誰もが安心して自分らしく暮らせる「福祉のまちづくり」の推進に取り組みました。

●基本方針① みんなで支え合って暮らせる地域づくり

小地域福祉活動を推進し、社会参加の入り口づくりをすすめました。また、様々な相談窓口機能を各地域で展開することで、住民の身近な圏域でニーズを早期に発見できる体制の構築を推進しました。

みんなで支え合って暮らせる地域づくりに向けて、今後は、住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりをすすめることが必要です。

●基本方針② 願いをカタチにしていく事業づくり

地域の中で、福祉を考える中心的な組織と連携し、地域課題の解決だけでなく、組織の取組課題の解決方策も一緒に考え、そこから生まれたアイデアを新たな取組みにつなげられるよう働きかけました。

今後も、住民の思いや地域のニーズに立脚した取組みをさらにすすめるとともに、地域と専門職が連携して行う地域共同ケアの実践が求められます。

●基本方針③ 福祉の“わ”を広げる人づくり

様々な研修や講座等の実施により、地域住民の社会参加や役割発揮のためのきっかけづくりをすすめました。また、社会的に孤立しがちな人たちへの専門的支援を展開する中で、地域や関係者との連携を図り、ネットワークづくりをすすめました。

今後は、分野を超えた重層的なネットワークを構築し、地域生活課題について総合的に相談に応じ、地域や関係機関と連絡調整等を行う体制づくりが必要です。

●基本方針④ 魅力ある社協組織づくり

社会福祉法人制度の改革に呼応し、「経営組織のガバナンスの強化」「事業運営の透明性の向上」「財務規律の強化」に取り組みました。また、「地域から頼られ、地域の願いに応えられる社協」を目指して、その基盤づくりのために、福祉にとどまらない他職種、他機関との連携をすすめました。

今後は、組織内連携を強化することで、計画的な事業展開を推進できる体制づくりを計画的にすすめていく必要があります。

事業の詳細

事業の詳細は、次ページ以降のとおりです。

(廿日市市地域福祉計画に示されている5つの基本目標にあわせて編集しています。)

基本目標

- 1 社会参加や役割発揮のための人づくり、参加の入口づくりを進めます
- 2 組織（主体）の意識や活動を進化させます
- 3 地域の問題解決に必要な情報を共有します
- 4 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます
- 5 多様な主体の強みを生かした新しい支えあいを育てます

◆廿日市市全域事業	P. 3 ~ P. 22
◆廿日市地域事業	P. 23 ~ P. 28
◆佐伯地域事業	P. 29 ~ P. 33
◆吉和地域事業	P. 34 ~ P. 38
◆大野地域事業	P. 39 ~ P. 44
◆宮島地域事業	P. 45 ~ P. 46
●円滑な事業推進体制のために	P. 47 ~ P. 49

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり

参加の入口づくりを進めます

地域活動をしていくきっかけとなる講座の開催、そして、障がいがあっても高齢になっても、気軽に参加でき、役割を発揮できる場を地域の中に作っていくための事業を実施した。

1 ボランティア活動支援事業（市補助 37千円）

福祉活動の担い手であるボランティアの活動の円滑な推進を支援すると共に、市内の小中学校が取り組む福祉教育活動に対し支援した。

- (1) ボランティア養成及び啓発活動
- (2) 福祉教育の支援（相談・ボランティア調整・体験指導・機材貸出し等）
- (3) ささえ愛ネットはつかいちの活動支援

2 ファミリー・サポート・センター事業（市委託・自主 4,502千円）

多様化する福祉ニーズ、とりわけ少子高齢社会に対応するため、依頼会員と提供会員の橋渡しを行なった。また、活動を通して依頼会員と提供会員の間に“ほっと”つながりや気軽に“SOS”が出せる関係づくりができることを目指した。

（ ）内は前年度実績

登録会員数	1,275人【依頼会員792人、提供会員425人、両方会員58人】 (1,152人【依頼会員712人、提供会員390人、両方会員50人】)
利用(活動)実績	2,143件【育児495件、介護1,648件】 (2,180件【育児440件、介護1,740件】)
広報活動	「あいとぴあ（市社協広報紙）」記事掲載（3回） 提供会員募集記事、研修会実施記事を掲載 「ファミサポだより」発行（2回） 各地区民生委員児童委員協議会の定例会・市社協ホームページで随時提供会員を募集
研修会・交流会の開催	研修交流会開催（10回・参加者95人） 研修会内容 6/29 子育てサポーター養成講座 6/30 食中毒予防講座 6/30 暑い夏を乗りきろう！お菓子作り 8/22 認知症サポーター養成講座 9/11 幼児安全法 9/11 子どもが喜ぶ♪おもてなしスイーツ 10/31 保育研修 11/13 子育てサポーター養成講座 12/18 栄養満点！ぱぱっと作れる健康ごはん 12/18 健康生活支援講習

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・事故防止のために、会員にヒヤリ・ハットの報告をしてもらう準備を行う。
→常に提供会員に声かけすることで、ヒヤリ・ハットの把握に努めた。
- ・リスクの洗い出しを行い、注意事項と対応を会員に具体的に示す。
→報告書提出時に、活動中に気になった点を聞き取り、活動に同行する等の対応をした。
- ・緊急時の対応について体制整備を行う。
→事故報告様式を作成した。

基本目標（２） 組織（主体）の意識や活動を進化させます

生活支援体制整備をはじめ、地域福祉を考える核となる組織と連動しながら、福祉課題解決のための「地域の役割」について協議の場づくりをすすめた。

1 生活支援体制整備事業【重点】(市委託 19,851千円)

介護保険法の改正にあたり、高齢者の日常生活を支えていくための、生活支援の仕組みづくりと、高齢者の社会参加促進に向けて、地域の多様な担い手による受け皿確保のための基盤整備を住民と共に行なった。

地域内で福祉課題や資源の情報共有、地域資源の更新の仕組みづくりを協議する協議体の整備を行なった。

(1) 全域

- ・市高齢介護課との業務連携会議（12回）
- ・リハビリ士会との業務連携会議（4回）
- ・市民センター職員部会研修（9/12）

(2) 廿日市地域

ア 佐方地区

- ・市地域政策課との協議（6/5）

イ 廿日市地区

- ・福祉の会定例会議出席（23回）

ウ 平良地区

- ・平良地区福祉を進める会（4/24・11/27・2/26）
- ・サンサンひろば開催に向けての話し合い（4/6）
- ・サンサンひろば（4/10）
- ・平良地区講演会（8/24）
- ・平良地区講演会振り返り（9/8）

エ 原地区

- ・原地区コミュニティ福祉部との協議（12/12・1/9・2/13・3/13）
- ・原市民センターまちづくり部会（8/23）
- ・原地区体制整備戦略会議（10/18・11/21）
- ・いきいき百歳体操体験会（11/21）

オ 串戸地区

- ・カフェくしどオープン（6/1）

カ 宮内地区

- ・河本一区百歳体操（1/23・2/6）

キ 地御前地区

- ・地御前市民センター職員との協議（9/19・11/13）

(3) 佐伯地域

- ・佐伯地域（玖島・友和・津田四和・浅原・支所）合同ヒアリング（8/23）
- ・佐伯地域生活支援体制整備事業説明会で4地区の代表者と支所、市民センター等への事業説明（2/10）

(4) 吉和地域

- ・つくる会 4回
 - ・つくる会研修 1回
- 詳細は【吉和地域】P.34

(5) 大野地域

- ・大野第8区で第3層協議体「八区ふれあい福祉の会」設立（5/11）
- ・大野地域福祉推進委員会で事業説明（7/11）
- ・大野地域福祉推進研究協議会で「地域包括ケアシステムから地域共生社会へ～10年20年先を見据えた住民参加のまちづくり」をテーマとした講演会を開催（3/3）

(6) 宮島地域

- ・市役所宮島支所と市社協宮島事務所との連絡会議（7/4）
- ・市役所高齢介護課・宮島支所・宮島市民センター・いもせ聚楽会・市社協地域福祉課・宮島事務所との連絡会議（8/8）

[平成29年度重点的に取り組む事項]

- ・各地域で、協議体となりうる団体の検討を行い、各地域で1か所、コミュニティ単位での協議体の設置に向けた調整を行う。
→各地域において、事業及び廿日市市の現状等説明、地域の実態についてアセスメントやヒアリングを行なった。少しずつではあるが、協議体の設置に向けた調整に取り組み、事業に対する理解を得ることができた。

基本目標（3） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

福祉総合相談事業を入り口としたニーズ把握、ニーズに基づく事業の展開について、広報活動を行なった。

1 福祉総合相談事業（自主・市補助 1,457千円）

市民の相談ごと、悩みなどの解決支援等のために、次の相談事業を行なった。

(1) 心配ごと相談の実施

3 2 人の相談員を委嘱し、「心配ごと相談所」を開設した。

地域	開催日時	場所	開催回数	相談件数
廿日市	毎週火・金曜日 (13:00～16:00)	廿日市市総合健康福祉センター (あいプラザ)	101 回	62 件
佐伯	毎週水曜日 (13:00～16:00)	佐伯社会福祉センター	51 回	13 件
吉和	原則第 1・2・3 水曜日 (13:00～16:00)	吉和福祉センター (すこやかプラザ)	36 回	9 件
大野	毎週木曜日 (13:00～16:00)	大野支所	50 回	17 件
宮島	原則第 1・2・3 月曜日 (13:00～16:00)	宮島福祉センター	29 回	6 件

(2) 福祉総合相談の実施

開設日時は、土・日・祝祭日を除く毎日 9 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0

(3) 専門相談の実施

項目	協力機関・団体	開催回数	相談件数
司法書士法律相談	広島司法書士会広島西支部	合計 14 回 (廿) 計 10 回 (佐) 計 2 回 (大) 計 2 回	合計 46 件 (廿) 計 38 件 (佐) 計 4 件 (大) 計 4 件
認知症介護相談	認知症の人と家族の会・廿日市	3 回	3 件
	認知症の人と家族の会・大野	12 回	15 件

(4) 心配ごと相談員研修の開催

心配ごと相談員の専門性と資質向上のための研修会を開催した。

地域	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
開催月	6 月・9 月・12 月・3 月	3 月	なし	3 月	3 月

(5) 全相談件数等の前年度との比較実績

項目	29 年度	28 年度	27 年度
心配ごと相談件数	107 件	80 件	109 件
福祉総合相談件数	178 件	191 件	184 件
専門相談件数（司法書士・認知症）	64 件	73 件	70 件

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・「くらしの相談」の情報を刷新し、ホームページ・広報等を活用し、市民に周知する。
→情報の収集まで終了。ホームページ等への活用が未実施。平成 30 年度中の発信及び随時情報更新を行なった。
- ・相談実績の傾向を分析し、事業の発展と見直しを図る。
→傾向分析を実施。事務担当者会議を開催し、平成 30 年度からの相談開催日（吉和・宮島）の変更、廿日市での当番相談員の適正配置等の実施を行なった。

2 広報啓発事業（自主・共募 3,244 千円）

広報紙の発行やインターネットを利用した情報提供を通じ、市民や各種機関に広く市社協の取り組みや市内の福祉活動の動向をお知らせし、住民の福祉への関心を高め、福祉活動への協力者を増やした。

(1) 市社協パンフレットの発行

市社協事業の概要を掲載したパンフレットを各戸に配布し、市社協の事業を広く住民にお知らせした。

(2) 市社協だより「あいとぴあ」の発行

偶数月の 1 日に市社協だより「あいとぴあ」を新聞折込みなどで各戸に配布し、市社協の取り組みや行事案内、地域の福祉情報を広く住民にお知らせした。

(3) ホームページの運営

市社協の取り組みや行事案内、ボランティアの募集など地域の福祉情報をホームページに掲載し、タイムリーな情報を住民にお知らせした。

(4) 各事務所独自の広報紙の発行

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・市社協広報紙「あいとぴあ」記事内容を単に、活動報告、募集内容、研修案内等とどまらず、事業方針や展開について重点を置き発信していく。
→生活支援体制整備事業の取組状況について特集記事を掲載するなど、事業内容の発信に努めた。今後も活動報告記事等と合わせ、事業展開の特集記事の掲載を企画していく。
- ・ホームページの活用として、今後も随時「お知らせ」を更新し、分かりやすく実用的な「事業・サービス紹介」を増やした情報を発信していく。
→行事案内やボランティア募集のほか助成金に関する情報、また地域の福祉活動情報など随時更新を行なった。

3 情報支援事業（市委託 1,969 千円）

聴覚や視覚に障がいのある人たちへの各種支援を実施した。

(1) 奉仕員の派遣

手話奉仕員、要約筆記奉仕員を派遣し意思伝達の手段を確保した。

聴覚障がい者への情報保障のために、講演会、会議等へ手話奉仕員の派遣及び要約筆記奉仕員の派遣調整を行なった。

【手話派遣実績】

()内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	317 件 (269 件)	498 時間 (504 時間)	28 人 (26 人)	26 人 (20 人)	31 人 (28 人)
団体派遣	6 件 (23 件)	13 時間 (40 時間)	—	12 人 (39 人)	—

【要約筆記派遣実績】

()内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	31 件 (29 件)	83 時間 (58 時間)	3 人 (3 人)	7 人 (5 人)	12 人 (12 人)
団体派遣	11 件 (13 件)	26 時間 (25 時間)	—	44 人 (52 人)	—

(2) 奉仕員の養成

ア 手話奉仕員ステップアップ講座

活動中の手話奉仕員のレベルアップのために手話奉仕員ステップアップ講座を開催した。

講座回数 全 1 回 2 時間

開催日	内 容	参加者
3/20	事例検討と手話通訳現場での基本的な動きについて	14 人

イ 音訳奉仕員勉強会

活動中の音訳奉仕員のレベルアップのために、音訳奉仕員勉強会を開催した。

講座回数 全 1 回 2 時間

開催日	内 容	参加者
3/12	広報等読み方の基本等について	10 人

ウ 音訳奉仕員養成講座

音訳奉仕員養成講座を開催した。

講座回数 全 10 回 2 時間 (延べ 20 時間) 参加者：9 人

(3) 情報の提供

視覚障がい者への音訳テープとして、「広報はつかいち」(毎月 1 日発行)、「さくらびあ物語」(奇数月 1 日発行)、「市議会だよりさくら」(5・8・11・2月の原則 10 日発行)、「あいとぴあ」(偶数月 1 日発行)、点訳本として「広報はつかいち」(毎月 1 日発行)、「さくらびあ物語」(奇数月 1 日発行)、「市議会だよりさくら」(5・8・11・2月の原則 10 日発行)「あいとぴあ」(偶数月 1 日発行)などを提供した。

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

・音訳奉仕員養成講座を開催する。

→音訳奉仕員養成講座を 9 人が受講し、受講者の内、4 人が音訳奉仕員として登録した。

基本目標（４） 社会的孤立を見逃さないための 仕組みづくりを進めます

高齢や、障がい、その他様々な理由で社会的孤立しがちな対象者を見逃さないために、行政等からの委託事業、自主事業などを実施する中で、新たなニーズ発掘を行なった。

1 リフトカー貸出事業 (市委託・自主 1,833千円)

廿日市・佐伯・吉和・大野事務所に5台のリフトカーを配置し、移動の手段が一般車両では困難な市民や、福祉団体に貸出しを実施した。リハビリやスポーツ、美容院、家族との小旅行、当事者団体のつどい、講演会・会議などへの参加手段として利用があった。

【貸出件数】 ()内は前年度実績

廿日市全域 5台	廿日市 2台	佐伯 1台	吉和 1台	大野 1台
571件(454件)	363件(345件)	67件(71件)	115件(11件)	26件(27件)

[平成29年度重点的に取り組む事項]

- ・市の運行要綱に沿った事業の在り方について検討する。
→要綱改正について、事務局内で協議した。
- ・大野事務所の福祉車両入れ替えに伴い利用促進に向けた周知を行う。
→社協パンフレット、ホームページ等で市民に対し周知を行なった。

2 車イス貸出事業

高齢者・障がい者及び緊急的に車イスが必要な人に、車イスを貸し出すことにより日常生活の利便向上に努めた。また、市内小中学校の福祉体験活動の用具として貸し出した。

【貸出件数・台数】 ()内は前年度実績

廿日市市全域	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
283件 (211件)	165件 (165件)	24件 (13件)	4件 (5件)	82件 (21件)	8件 (7件)
389台 (271台)	216台 (201台)	47台 (22台)	5台 (5台)	109台 (32台)	12台 (11台)

3 認知症高齢者等支援事業 (市委託・自主・共募 976千円)

認知症等になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域づくりを目指し、次のとおり事業を展開した。

(1) 認知症にやさしい地域づくりネットワークの形成

はいかいSOSネットワークとの連携により、行方不明者の早期発見・保護に努めた。

対応件数	無事発見・保護件数	事前登録者数
14件	14件	118人

ア はいかいSOSネットワーク運営連絡会議の開催 (8/1)

イ 啓発活動の実施

関係諸機関と連携しながら啓発活動に努めた。

開催日	会場	内 容
9/28 ～10/1	フジグラン ナタリー	介護健康フォーラム (認知症・介護相談、福祉のお仕事相談他)

ウ 広島市佐伯区との連携会議

広域での検索をスムーズにするため、佐伯区との連携会議を行なった。

(2) はいかい高齢者家族支援サービスの実施

位置検索端末機の貸出し実績 10台 (保有台数 10台)

(3) 認知症高齢者支援会議の開催

年6回、関係者が集まり、認知症関連事業の取組みについて協議した。

(4) キャラバン・メイト及び認知症サポーターの養成

ア 認知症サポーター養成講座の開催 (地域・職域・学校)

分類	受講団体	回数	受講者
地域	老人クラブ、サロン、町内会 他	12回	368人
職域	J A広島総合病院	1回	115人
学校	日本赤十字広島看護大学、津田小学校、友和小学校、大野西小学校、廿日市小学校、廿日市中学校、吉和小学校及び中学校	8回	503人
計		21回	986人

イ 地域別の取組み

(ア) 全市域

- ・認知症サポーター養成講座の開催に当たり、各地域での活動状況の情報交換や、キャラバン・メイトのスキルアップに向けての研修等を開催した。(2/26)

(イ) 廿日市地域

- ・キャラバン・メイト廿日市地域部会 (年3回)

(ウ) 佐伯地域

- ・キャラバン・メイト連絡会等の開催

日時	内 容	参加者
7/26	佐伯・吉和地域キャラバン・メイト連絡会	7人
10/22	「心と心のハーモニーフェスタ」で、認知症啓発劇と認知症相談会を実施	9人

(エ) 吉和地域

- ・8月21日吉和児童クラブ利用者にサポーター養成講座を開催14人の参加があった。
- ・吉和地域のキャラバン・メイトと地域包括支援センター、吉和地域の医療従事者、高齢介護事業所との協働により、吉和文化祭等でパンフレットを配布し、周知に努めた。

(オ) 大野地域

- ・キャラバン・メイト大野宮島地域部会 (4/13)
- ・キャラバン・メイト大野宮島地域部会プロジェクト (年5回)

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

認知症にやさしい地域づくりネットワーク形成

- ・本事業を円滑に運用するため、ネットワーク協力機関の連絡網及び、事前登録者の整理・更新を行う。

→はいかいSOSネットワーク協力機関、事前登録者の整理・更新を行なった。

認知症高齢者支援会議

- ・市内の認知症に関する団体が情報を共有できるように、構成メンバーの見直し、整理を行う。

→認知症初期集中支援チームを新たなメンバーとして加えた。

キャラバン・メイト及び認知症サポーターの養成

- ・キャラバン・メイトの登録者数が増えていくなか、認知症サポーター養成講座に関わる人が限られており、メイトとして意識の向上及び活動を維持するため、メールや郵送で講座開催の案内や報告を発信していく。

→キャラバン・メイト全体会及び研修会の開催や運営推進員会で方策を検討した。

- ・講座を開催する地域に、住居や職場があるメイトに積極的に声をかけて負担の少ない役割で多くの人に参加してもらう。

→地域の施設職員等にキャラバン・メイトとして活動を依頼した。

4 地域の集いの場立ち上げ支援事業（新規）（市委託 344千円）

地域の高齢者が集える場の新規立ち上げに対し助成金を交付し、新たなつどい・サロンづくりの支援を行なった。

- ・助成実績

計 12 団体助成

（廿日市地域）サンサンひろば、健康体操の会、仲よしサロン、サロンひまわり、サロ
ンえがお、金剛寺サロン、夢あじな

（佐伯地域）おたっしゃる一む、林サロンみのり、なかよしサロン、カラオケサロン、
すこやかサロン

5 生活困窮者自立相談支援事業【重点】（市委託 18,500千円）

生活困窮者が抱える多様で複雑な問題について、生活困窮者からの相談に応じ、必要な情報提供及び助言を行うとともに、様々な支援を一体的かつ計画的に行うことにより、生活困窮者の自立への促進に寄与した。

(1) 活動実績及び件数

項 目	件 数
新規相談受付	293 件
自立支援計画作成	96 件（再作成含む）
自立支援計画評価	51 件（うち終結 39 件） 一般就労達成 4 件
支援継続中ケース数（3 月末）	111 件
住居確保給付金申込受付	1 件
一時生活支援事業申請受付	1 件
生活困窮者支援調整会議の開催	定期 12 回（毎月）、随時 1 回

(2) 出席会議及び研修会等

内 容	回数	職員人数
佐伯地域 9/14	1	1
市民児協会長会議 2/22	1	1
はつかいち福祉ねっと全体会（きらりあ主催） 7/7	1	1
縁側サロン 7/10	1	1
生活保護受給者等就労自立促進事業（ハローワーク廿日市主催） 5/26	1	1
第7回トラブル体験会 in はつかいち なんでも相談会（市民グループええじゃん主催） 8/20	1	1
大野地域福祉推進委員会 1/31	1	1
市福祉保健部内研修 2/6	1	1
生活困窮者自立支援事業担当者会議（広島県社協） 9/14	1	1
生活困窮者自立支援事業全国大会（高知） 11/11-12	1	1
居宅介護支援事業所連絡会（地域包括支援センター主催） 共同募金資材配布（廿日市地域）		

(3) フードバンク事業の立ち上げ

まだ食べられるのに、様々な理由で処分されてしまう食料品を、食に困っている生活困窮者、地域の高齢者や子どもたちの支援に係る団体・施設が活用できるようにするための仕組みづくりを行なった。（平成29年度1社）

[平成29年度重点的に取り組む事項] ・必要なときに相談につながる体制（ネットワーク）づくりに取り組む。 →市役所庁内での事業説明や、市民レベルでの生活相談の場面に積極的に参加し、事業の紹介を行なった。

6 福祉サービス利用援助事業（県社協委託、事業収入 8,070千円）

日常生活において判断能力が不十分で不安のある人が安心して地域生活ができるよう権利擁護を目的に福祉サービス利用援助、日常的金銭管理のお手伝い、重要書類等預かりサービスを実施した。また、制度について、医療機関、地域包括支援センター、福祉施設及び民生委員等への周知に努めた。

(1) 実施状況

ア 契約状況

新規相談：58件（内、契約26件）

イ 地域別実利用人数

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	計
68人	12人	1人	20人	5人	106人

ウ 事業開始からの契約件数累計

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
契約件数	143件	33件	75件	24件	275件

エ 訪問、窓口、電話等による相談・調整・支援件数

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
2,235件	1,166件	3,174件	664件	7,239件

(2) 生活支援員の確保・研修の実施

ア 活動実施体制の充実

生活支援員が担当しているケースについては随時、情報共有、支援方針を検討する等、協議や連絡調整を重ねることで相互の信頼関係の構築と資質の向上に努めた。

イ 生活支援員人数（地域別）

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	計
18人	4人	1人	9人	0人	32人

ウ 生活支援員の資質向上のための研修会開催（年2回）

開催日	内 容	参加者
第1回 4/6	本事業の事業報告 「かけはし事業に関わる者の役割と関わり方」 講師：廿日市市社会福祉協議会 会長 蛭江 紀雄	17人
第2回 3/12	「もしかして認知症？に備えよう」 (認知症サポーター養成講座) 講師：廿日市野村病院 認知症初期集中支援チーム 社会福祉士 木戸 友成さん	10人

(3) 関係機関との連携強化

ア 福祉サービス利用援助事業運営連絡会議の開催（2/6）

広島弁護士会、リーガルサポートひろしま、廿日市金融機関懇話会、県西部厚生環境事務所、市福祉総務課、地域包括支援センター、障がい福祉相談センターきらりあ、民生委員児童委員協議会、県社協等による運営連絡会議を開催した。

イ ケース会議等の開催

複合的課題を抱えている世帯や社会的孤立状態にある人など、対応に苦慮するケースについて、本人が置かれている状況等を関係機関（地域包括支援センター、市行政関連部署、福祉施設、医療機関、民生委員児童委員等）で情報共有し、支援方針、役割分担等について協議するとともに、ネットワークの構築に努めた。また、様々なケースを通して、関係機関と連携して支援を行い協力体制の強化に努めた。

(4) 組織内の連携強化及び担当職員の資質の向上

ア 福祉サービス利用援助事業の専門員及び担当職員を複数配置し、支援体制の強化、組織内の担当職員による会議の開催や情報共有等、連携して事業実施した。

イ 会議等開催、参加状況

主催	運営連絡会議	1回	ケース会議等	56回
	生活支援員研修会	2回	社協内担当者会議	12回
参加	専門員連絡会議（2回）	1人	権利擁護をすすめる相談援助 技術向上研修会	1人
	成年後見制度推進団体連絡 会議	1人	中国ブロック専門員研修	1人

相談援助職としての技量の向上を目的とした中国ブロック専門員研修を受講し、事例検討をもとに、利用者への関わり方や社会資源との連携について学び、専門員としての視点や知識・技術を学んだ。

(5) 事業の周知

サロンや外部団体主催の研修会での出前講座等を通じ事業の周知に努めた。

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・利用者が不安を軽減し、生きがいを得ながら地域で生活を送れるよう、幾つかの事例に対して重点的に、利用者と地域との接点づくりについて課（又は事務所）職員複数人で取り組む。
- 職員や生活支援員が利用者の視点に立つことを意識し、支援することに努めた。
- また、関係機関との会議や相談等により、利用者と地域社会との接点づくりについて考え、取り組んだ。

7 法人後見事業（自主 911千円）

認知症、知的障がい及び精神障がい等の理由で判断能力が不十分な人が地域で安心して暮らし続けられるよう、本会が法人として成年後見人を受任し、必要な支援、調整等の後見業務を行なった。

(1) 事業の運営

ア 法人後見事業運営委員会の開催

開催日	内 容	出席者
9/4	廿日市市域における法人後見事業の実施状況報告 成年後見受任ケースに関する懸案事項について協議	25 人
2/7	講演：「成年後見制度利用促進法と同促進基本計画について」 講師：広島県弁護士会 弁護士 水中 誠三さん 全国及び県内、市内の福祉サービス利用援助事業及び法人後見事業の実施状況報告 成年後見受任ケースに関する懸案事項について協議	23 人

イ 法人後見事業後見支援会議の開催（1回）

本会が成年後見人等候補者になることの適否について協議をした。（1回）

ウ 職員研修等

(7) 県社協主催の研修及び成年後見制度推進会議等に出席し、動向の把握、担当職員の資質向上に努めた。

(4) 法人後見事業担当者勉強会を開催し、法人後見事業の実施における疑問点の解消と対応策等の共通認識を持つことの大切さを学んだ。

開催日	内 容	出席者
9/4	内容：成年後見制度の活用開始時期の検討と申立時の留意事項等について 講師：清水佐智子司法書士行政書士事務所 清水 佐智子さん	8 人

エ 後見支援員の育成

新規受任ケースがなかったため、後見支援員の新規委嘱をしなかった。

登録人数 2 人

活動状況：対象者 1 人に対し、延べ 1 2 回の支援にあたった。

(2) 実施状況

ア 年度末における受任ケースの内訳（ ）内は事業開始からの累計

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	計
0 人 (2 人)	2 人 (2 人)	0 人 (1 人)	2 人 (5 人)

※ 全て後見類型

イ 訪問、窓口、電話等による相談・調整・支援件数 ()内は前年度実績

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	計
0回 (188回)	163回 (91回)	0回 (84回)	163回 (363回)

ウ 事業開始からの受任等件数 ()内は事業開始からの累計

項目	件数	項目	件数
候補依頼受付	3件 (11件)	候補承諾	2件 (10件)
申立	1件 (7件)	新規受任	0件 (5件)
報酬付与申し立て	4件 (8件)	終了	0件 (3件)

エ 意識啓発・広報

集会所で実施されているサロン等での事業説明を通して、事業実施について周知すると共に、権利擁護について意識啓発を行なった。併せて次の研修会等で事業説明を行なった。

開催日	内 容	出席者
7/26	【友和の里入所部保護者会勉強会】 1 成年後見制度における「申立手続きと後見人による具体的なサポート」 講師：認定社会福祉士 河口 幸貴さん 2 市社協が実施する法人後見事業とかけはし事業について 説明者：市社協かけはし担当職員	約 40 人
2/25	【廿日市市社会福祉協議会訪問介護センター研修会】 権利擁護をささえる「後見制度」を考える 説明者：市社協かけはし担当職員	32 人
2/26	廿日市高齢者ケアセンター居宅介護事業所勉強会 福祉サービス利用援助事業「かけはし」と法人後見事業による支援の実情について 説明者：市社協かけはし担当職員	6 人

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・安定して事業を運営できるよう、事務局職員及び後見支援員の資質向上に努める。
→ 県社協主催の担当者連絡会議への出席や、法人後見事業運営会議で促進基本計画について受講。また、法律家を招いての勉強会を開催し資質の向上に努めた。
- ・安全に後見事務を遂行できるよう、財産管理及び各種手続き等における業務の標準化、マニュアル作成に取り組む。
→ 預かり物の管理及び出納について、事務手順の再整備を行なった。
- ・成年後見制度及び福祉サービス利用援助事業の普及、権利擁護意識啓発のために地域で開催されるサロン等で情報提供（出前トーク）に取り組む。
→ 専門職や当事者団体の勉強会で、事業の説明及び権利擁護意識の啓発を行なった。サロン等においても来場者に対して事業説明等を行なった。

8 生活福祉資金貸付事業 (県社協委託 1,802 千円)

低所得者・障がい者・高齢者等に対して、資金の貸付けと民生委員による必要な援助指導を行うことにより、経済的自立及び生活意欲の向上、促進を図り、生活の自立と安定に向けた支援を県社協と共に行なった。

また、日常生活全般に困難を抱えた失業者等に対して、生活の立て直しのためはつかいち生活支援センターによる継続的な相談支援と償還に向けた支援プランを作成し自立のための支援を行った。

- ・償還につながるよう借受人、連帯借受人、連帯保証人に対し、民生委員と連携し、状況の把握に努めた。
- ・県社協からの送付文書により残額の通知、滞納者に対する督促を行なった。

【貸付実績】 () 内は前年度実績

申請等実績	相談件数	申請件数
生活福祉資金	387 件 (142 件)	12 件 (10 件)

9 緊急生活安定資金貸付事業 (自主 593千円)

緊急に生計の維持が困難になった世帯に対し生活費を貸し付けることにより、経済的自立及び生活の安定を目指した支援を行なった。また必要に応じて、地域包括支援センター等から意見を聴取し、自立に必要な相談支援を行なった。

【貸付実績】 () 内は前年度実績

件数	金額
23 件 (10 件)	593,000 円 (215,000 円)

[廿日市・佐伯・吉和地域]

10 障がい児者指定居宅介護等事業 (自主・廿日市・佐伯・吉和 24,071千円)

障がい児者の自己決定を尊重し、地域で安心して暮らせるよう支援を行なった。

(1) 訪問介護員の派遣

在宅障がい児者世帯に対する訪問介護員の派遣を行なった。

ア サービス利用時間数 () 内は前年度実績

身体介護	家事援助	移動 [視覚]	移動 [知的]	移動 [全身性]
3,539.5 時間	115.5 時間	8.0 時間	6547.5 時間	1,528.0 時間
(2,643.0 時間)		(23.5 時間)	(6564.0 時間)	(1,640.0 時間)

イ 契約者数 () 内は前年度実績

区分	児童	知的障がい者	身体障がい者
契約者数	10 人(12 人)	87 人(86 人)	21 人(21 人)

ウ ヘルパー数 () 内は前年度実績

サービス提供責任者	1 人 (1 人)
登録ホームヘルパー	81 人 (98 人)
視覚障がい者ガイドヘルパー	62 人 (68 人)
知的障がい者ガイドヘルパー	41 人 (45 人)
全身性障がい者ガイドヘルパー	78 人 (86 人)

(2) 研修の実施

開催日	内 容	参加者
5/23・6/12	廿日市市消防署による救命講習	14 人
1/30	介護技術向上研修	30 人
2/25	勉強会「後見制度を考える」	28 人

(3) 関係機関との連携

ア 請求事務

行政や他事業所と連携を取りながら請求事務を行なった。

イ 担当者会議への出席

担当者会議に出席し、相談支援業務への協力を努めた。

ウ 他事業へのつなぎ

利用者のニーズを把握し、本事業で対応できない支援については、市社協の他事業につなげるよう努めた。

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・ 支援の評価を行い、改善に努める。
→利用者の状況を把握し、より安全に支援の機会が増えるように体制を整えた。
- ・ 各事務所（廿日市・佐伯・吉和）間で連携し、ニーズにあった支援を行う。
→パソコン内で支援予定を各事務所が共有することで、ヘルパー派遣及び事務処理を円滑に行えるように努めた。

基本目標（５） 多様な主体の強みを生かした 新しい支えあいを育てます

災害時の生活支援をキーワードに、様々な団体との連携強化に努めた。市内での団体に活動助成を行い、つながる中での新たな取組みの創出を行なった。

1 災害救援事業（共募・市補助 98千円）

- (1) 「廿日市市被災者生活サポートボラネット」推進会議の開催及び運営

開催日	内 容	参加者
5/30	今年度の取組みについて	24人

- (2) 講演会（研修会）の開催

開催日	内 容	参加者
12/4	「わたしたちにしかできない備え」 ～避難所で問われる「自助力と受援力」～ 講師：広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院 寺田 英子さん	47人

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・小地域での被災者生活サポートボランティアセンター設置訓練を実施する。
→推進会議での呼びかけ等を行なったが、実施にはいたらなかった。
- ・廿日市市被災者生活サポートボラネットの関係団体を増やす。
→廿日市市シルバー人材センター及び生活協同組合ひろしまと協定を結び、関係団体を増やした。

2 福祉人材育成事業（自主・県社協助成 1,112千円）

- (1) キャリアスタート（中学生）の受入れ

地域福祉課で、廿日市中学校2年生3人の受入れを行なった。

- (2) 社会福祉士受験にかかる社会福祉援助技術実習の受入れ

社会福祉士等の国家資格取得に対する実習生の受入れを行なった。

機関等	時間	人数
広島文化学園大学	180	1人
広島文教女子大学	180	2人
広島福祉専門学校	180	2人
日本メディカル福祉専門学校	180	1人

- (3) 廿日市市地域人材確保体制整備事業

ア 廿日市市福祉・介護人材確保等総合支援協議会の開催（2回）

【構成団体】老人福祉施設連絡協議会、訪問介護事業所連絡会（障がい部門）、ハローワーク、県担当課、市関連部署、県社協、市社協

開催日	内 容	参加者
9/29	広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会の活動状況等について 廿日市市福祉・介護人材確保等総合支援協議会の設置について 情報共有：市全域における福祉・介護人材確保に関する現状等について	15人
3/7	平成29年度以降の活動等について	13人

イ 廿日市市・大竹市「福祉・介護職場の就職面談会」の開催

開催日	12/4	開催場所	廿日市商工保健会館
参加事業所	17	面談者延べ人数	81人
求職者	40人	本面談会を通じた採用	5人

ウ 情報提供活動

コミュニティFM「FMはつかいち」を利用し、就職面談会の周知及び福祉現場における取組みややりがい等について、月2回発信した。

エ 福祉施設職員相互研修事業の企画・実施

市内の福祉施設に勤務する職員(延べ35人)が、他施設で1～2日間を過ごし、情報交換や交流及び研鑽に努めた。(延べ参加日数 33日)

期間	参加施設：18施設・事業所
7/24～ 10/20	(廿日市地域) 生活介護事業所くさのみ作業所、ピクトハウス、さくら作業所、特別養護老人ホーム清鈴園、デイサービスセンター清鈴園、障がい者支援施設原、広島西こども発達支援センターくれよん、デイサービスセンターゆうゆうあまの、サンキウエルビィ小規模多機能センター (佐伯地域) 特別養護老人ホームさいきせせらぎ園、広島ひかり園、友和の里、にじのえき (大野地域) 特別養護老人ホーム洗心園、グループホームラ・メール大野、あいあい作業所、老人保健施設べにまんさくの里 (宮島地域) 地域密着型老人福祉施設みやしろ

3 日本赤十字社活動資金募集協力事業 (日赤 2,254千円)

赤十字事業の趣旨及び必要性の周知を行い、活動資金を募集した。5月を活動資金募集運動月間として、目標額13,926,000円に対し、個人寄付者からの大口寄付もあり達成率は112.7% (前年度76.5%)と前年度を大きく上回った。

また、火災などの災害に対し救援物資を送付するとともに、国内外で発生した台風・地震・大雨などの大規模災害への義援金・救援金募集及び周知を行なった。

・日赤活動資金募集実績 ()内は前年度実績

活動資金実績額
15,700,180円 (10,659,379円)

4 共同募金運動協力事業

共同募金が民間福祉活動を支える重要な財源であるという趣旨の周知徹底を図り、赤い羽根共同募金運動、歳末たすけあい運動、地域テーマ募金活動を展開した。

目標額13,853,000円に対し、達成率は100.4% (前年度：99.9%)だった。

(1) 赤い羽根共同募金運動、歳末たすけあい運動、地域テーマ募金実施（10月～3月）

(単位：円)

	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
戸別募金	4,031,747	1,038,850	195,500	2,499,100	198,900
街頭募金	57,298	0	0	0	47,820
法人募金	254,970	98,500	111,000	164,000	9,064
学校募金	85,412	31,429	0	8,945	0
職域募金	396,031	6,870	24,868	273,960	29,787
イベント募金	52,389	10,032	565	11,558	0
その他募金	354,662	134,125	37,936	19,800	94,352
歳末募金	0	1,026,950	0	2,403,672	198,300
合計	5,232,509	2,346,756	369,869	5,381,035	578,223

総計 13,908,392 円（前年度 13,581,343 円）

(2) 地区別地域福祉推進会議でのPRの実施

(3) 共同募金委員会運営委員会、審査委員会の開催

5 福祉団体等支援事業（自主・共募 3,539 千円）

福祉団体が実施する福祉事業に対し、活動に対する助成を行うことにより住民福祉活動及び自主運営の促進に努めた。

(1) 福祉団体へ助成金の交付

ア 全域

(単位：円)

廿日市市老人クラブ連合会	100,000	福祉教育活動費助成（市内の各小・中学校対象）	540,000
--------------	---------	------------------------	---------

イ 廿日市地域

(単位：円)

社会福祉法人くさのみ福祉会	50,000	重度障害児者のつどい「ジョイフル」	120,000
虹の会	10,000	廿日市市民生委員児童委員協議会	100,000
ささえ愛ネット廿日市支部	265,000	第43回広島県知的障害者福祉大会 第16回はつらつ大会実行委員会	50,000

ウ 佐伯地域

(単位：円)

機能訓練会「あけぼの会」	30,000	精神障害者家族会「こぶし会」	30,000
ボランティアグループ「ひまわり会」	50,000	在宅障害児音楽療育「パレット」	20,000
在宅介護者の会「リフレッシュクラブ」	20,000	さいき障がい児と親の会「みかん」	20,000
わんぱく旅行実行委員会	709,000	心と心のハーモニーフェスタ実行委員会	747,000
精神障害者サロン「ちゅうりっぷの会」	20,000	コミュニティ活動支援（玖島・友和・津田四和・浅原）	40,000

エ 吉和地域

(単位：円)

ボランティア吉和（ささえ愛ネットはつかいち吉和支部）			5,000
----------------------------	--	--	-------

オ 大野地域 (単位：円)

大野ボランティア連絡協議会 (ささえ愛ネットはつかいち 大野支部)	154,000	大野障がい者団体連絡協議会	80,000
---	---------	---------------	--------

カ 宮島地域 (単位：円)

宮島町食生活改善推進協議 会	20,000	地域ふれあいフェスタ実行委員 会	128,819
-------------------	--------	---------------------	---------

(2) 各団体との協働事業

開催日	場所	内 容	参加者
6/17	ゆうわ せせらぎ園	市社協事業説明（市社協職員による説明） （地域作品展&介護相談会）	20人

(3) 福祉関係団体事務支援事業

福祉関係団体の事務や事業の支援を通して自立運営を支援した。

ア 吉和地域：老人クラブ・障害者福祉協会

イ 宮島地域：老人クラブ・障害者福祉協会・宮島町遺族会

【廿日市地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

1 ボランティアセンター活動推進事業（自主・市補助・共募 197千円）

福祉活動の担い手であるボランティアの活動が円滑に進められるよう、また、市内の小・中学校等が取り組む福祉教育活動を支援し、子どもたちが地域に目を向け、学校と地域との連携を図り、心の通うまちづくりへの推進に努めた。

- (1) 市内各学校が実施する福祉体験学習への各種支援（相談・ボランティア調整・体験指導・機材貸出等）

開催日	内 容	対象者
7/19	車いす体験（飛来行・6人）	廿日市中学校

- (2) 小中高校・特別支援学校の体験学習（施設見学の際のボランティア説明）の受入れ

開催日	対 象 者	人 数
6/14	廿日市小学校 4年生	125人
7/3	平良小学校 4年生	97人

- (3) 福祉体験学習（一般）の受入れ

開催日	対 象 者	人 数
6/20	民生委員児童委員 障害者部会研修会	60人

- (4) ボランティア活動推進

福祉活動の担い手であるボランティアの活動が円滑に進められるよう次の支援を行なった。

ア ボランティア活動推進体制の整備

イ 個人ボランティアに対する積極的な情報と、活動の場の提供

ボランティア情報の提供 延べ62件

ウ 大学との応援会議の実施・連携強化・入門講座や出張講座の開催

(ア) 応援会議の開催

開催日	内 容	参加者
4/17	昨年度の振り返り・今年度の取組みについて	山陽女子短期大学・日本赤十字広島看護大学・市協働推進課・市社協 10人
5/15	第1回ボランティア講座について	山陽女子短期大学・日本赤十字広島看護大学・市協働推進課・市社協 13人
7/1	第1回ボランティア講座反省会	山陽女子短期大学・日本赤十字広島看護大学・市協働推進課・市社協 7人
10/2	第2回ボランティア講座について	山陽女子短期大学・日本赤十字広島看護大学・市協働推進課・市社協 7人
2/20	第2回ボランティア講座反省会	山陽女子短期大学・日本赤十字広島看護大学・市協働推進課・市社協 8人

(イ) 学生のためのボランティア入門講の開催

開催日	内 容	参加者
7/1	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアしてみよう！ 小さな子どもたちと遊ぼう！ 高齢者デイサービスのお手伝い！ 手話を学ぼう！ 障がいのある子たちと一緒に遊ぼう！ (施設ボランティア・ショッピング) ・交流会で意見交換 	17人
12/16	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアしてみよう！ 子どもたちとクリスマス飾りを作ろう！ 高齢者デイサービスのお手伝い！ 障がい者とネイルを楽しもう！ 手話でコミュニケーション！ 赤い羽根共同募金活動をしよう！ ・交流会で意見交換 	44人

(ウ) ボランティア出張講座の開催

開催日	内 容	対象者
5/24	ボランティアについて	日本赤十字広島看護大学
5/29	ボランティア論 目的・意義・地域とのつながり	山陽女子短期大学

エ 他事業（遊びの教室、サロン事業）と連携したボランティア育成

(ア) 遊びの教室へのボランティア派遣

(イ) サロンへのボランティア派遣

オ ささえ愛ネットはつかいちの協力を得て、小中学校のボランティア体験学習の実施

開催日	内 容	対 象
6/14	車いす体験（飛来行）	廿日市小学校
6/14	点訳体験（点訳グループあい）	廿日市小学校
6/14	手話体験（阿品台手話サークル）	廿日市小学校
7/25	車いす体験（飛来行）	廿日市中学校
10/24	視覚障がいアイマスク体験	宮内小学校
10/25	点訳体験（点訳グループあい）	宮内小学校
3/9	点訳体験（点訳グループあい）	原小学校

カ ささえ愛ネットはつかいちの活動支援

(ア) 活動助成金の交付

ささえ愛ネットはつかいち及び各支部に助成し、活動の促進に寄与した。

(イ) ボランティア交流会（吉和支部担当）の開催

4/9 参加者 19人（廿日市支部合計）

キ 地域の福祉まつりへのボランティア参加の支援

ク 使用済み郵便切手収集の実施

使用済み郵便切手を収集し、誕生日ありがとう運動本部へ切手を送付した。また、切手仕分け作業を登録ボランティアへ紹介し、活動へとつないだ。

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・既存のボランティア活動者を対象にスキルアップ講座を開催する。
→ボランティア情報をきめ細かく提供し、市民のボランティア活動につなげることが出来た。スキルアップ講座は福祉教育の一環を担い、ボランティアと学生の相互作用が生まれ交流も図れ知識等、習得の場になった。

2 遊びの教室事業 (廿日市 自主・共募 190 千円)

長期休暇中の在宅障がい児に家庭だけでは体験できない豊かな経験の場、学校の枠を超えた交流の場を提供するとともに、家族の負担軽減を目的として、春休みに 1 回・夏休みに 6 回・冬に 1 回実施した。

多くの民生委員児童委員や学生ボランティアに関わってもらい継続して参加するボランティアが学生も含めて増えてきた。また毎回楽しみにしている子どもたちが多く、学生ボランティアの活動のきっかけづくりになっている。

開催日	内 容	場 所	参加者 (子ども)	Vo・スタッフ (職員含む)
4/5	安佐動物園に行こう	安佐動物園	16 人	31 人
8/3	バイキングと映画鑑賞	あいプラザ	10 人	15 人
8/4	バーベキュー	アルカディア	11 人	18 人
8/9	おやつ作りとこども喫茶	あいプラザ	9 人	12 人
8/10	おやつ作りとこども喫茶	あいプラザ	6 人	16 人
8/23	午前：うどんづくり 午後：はつぴいまつり	あいプラザ	12 人	17 人
8/24	午前：うどんづくり 午後：はつぴいまつり	あいプラザ	6 人	19 人
12/16	午後：クリスマス会	あいプラザ	11 人	31 人

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・ボランティアを含め参加者が楽しく参加できる内容を企画し、楽しみながら子どもたちの自己肯定感が育つ取組みとする。
→ボランティアにやってもらえばかりでなく、子どもたちが主体的に関わることのできるよう声かけなどを行なった。
- ・事故防止に努める。
→遠征場所へは下見を行なった。

3 精神保健福祉事業 (廿日市 共募 12 千円)

- (1) 精神保健福祉ボランティア「ねこの手」の夕食会への参加
- (2) 精神障がい部会への参加

4 地域のつどい・サロン支援事業 (自主・共募・県社協補助 1,747 千円)

高齢者、障がい者、子育て世代など様々な人を対象としたサロンの活動推進・拡大を目的に事業を展開し、地域の当事者による取組みを支援した。

- (1) 集い(サロン)関係者を対象とした研修会の実施

ア 地域のサロンの自主運営を目指し、継続的に開催されるための支援

取組み	内 容
レクリエーショングッズ貸出し	活動に必要なレクリエーショングッズの貸出し実施 (124 件)
各種助成金案内	・計 2 件助成 (お茶の間づくり事業助成 1 件、地域のつどいサロン支援助成 1 件) ・他財団助成金情報の案内
保険案内	ボランティア行事用保険、活動保険の案内
相談対応	各種相談対応 (16 件)
広報活動	・「あいとぴあ (市社協広報紙)」記事掲載 ・各地区民生委員児童委員協議会の定例会等でサロン世話人のためのおしゃべりサロン参加呼びかけ ・市社協ホームページ掲載 ・おしゃべりサロンNEWS 発行 (3 回)
サロン訪問	10 ヶ所 (計 14 回)

(2) 情報共有・不安解消のため、地域ごとのサロン交流会の実施

ア サロン世話人のためのおしゃべりサロンの開催

サロン活動の充実と、世話人同士で悩みや喜びを共有することを目的に、サロン世話人を対象とした交流会を実施した。世話人同士の横のつながりができただけでなく、新規立ち上げサロンや新任世話人への情報提供を行なった。

開催日	内 容	参加者
6/30	暑〜い夏を乗りきろう講座 (ファミリー・サポート・センター研修と合同開催)	10 人 (延べ 17 人)
10/31	介護技術をみんなで楽しく学ぶ	18 人
12/22	レクリエーショングッズ体験・交流会	11 人
3/22	となりのサロンは何してる？	22 人

(3) 小地域のお茶の間づくり事業の推進 (県社協委託事業)

県社協が実施するお茶の間サロンの運営支援を行なった。また、指定を終了しているサロンについても、支援を継続した。

ア 指定状況

阿品台地区 (2 年目)

5 あいプラザまつり (廿日市 自主・共募 268 千円)

「生涯学習フェスティバル」と同日開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
11/5	あいプラザ及び新宮中央公園	約 6,500 人	444 人

(1) 社協活動事業の紹介

社協が実施している事業を紹介するとともに、賛助会員の募集を行なった。

(2) ボランティア体験コーナーやパネル展示

ボランティア体験コーナーやパネル展示等でボランティア活動を紹介した。またサロン紹介や、平良小学校生による無料喫茶コーナーの開設など通じて、世代間交流を深めた。

(3) バザー出店

市内福祉団体がバザー出店することで市民に団体を紹介し、つながりを深めた。作業所メンバーがボランティアコーナー、バザーコーナーで交流することで、「ちょっと知り合う」

体験を行なった。

また、学生ボランティアの参加が、地域とのつながりやボランティア経験を積む機会となり、無料体験コーナー、展示コーナー及びオープニングを含め市内作業所の活動を紹介できた。

(4) 街頭募金活動

廿日市小学校の児童、廿日市地区共同募金委員会運営委員による赤い羽根共同募金街頭募金活動を実施した。

(5) 参加団体との協議、情報共有の場づくり

参加団体で構成する「3部門企画会議」を開催し、実施内容の充実に向けた協議や情報の共有を行なった。

(6) 合同スタンプラリー

社協と市健康推進課（あいプラザ館内）、市生涯学習課（生涯学習フェスティバル）等との合同スタンプラリーを実施した。

(7) 参加団体同士の出会いの場

市民みんなのまつりとして、開催準備に関わる市民を増やすなど、参加団体同士が出会い、知り合えるための機会づくりに努めた。

(8) 障がい児者の社会経験の機会

あいプラザまつりの準備及び当日の運営を通じて、障がい児者が自身の社会経験として参加できる機会、仕組みづくりに取り組んだ。

基本目標（2） 組織（主体）の意識や活動を進化させます

1 小地域ネットワーク事業【重点】（自主 121千円）

地域の福祉課題は地域で解決できる体制を確立していくために、様々な地域の取組みのバックアップをした。

(1) 地区福祉部会（地区社会福祉協議会やコミュニティ推進協議会の福祉部会等）への事務局活動費助成

・計4件助成

佐方アイラブ自治会、平良地区コミュニティ、四季が丘地区社会福祉協議会、宮園地区社会福祉協議会

(2) 地域住民の福祉に関する意識向上に向けての取組み

地域福祉推進団体の総会、勉強会などで市社協事業等の取組み説明や福祉ニーズの聞き取りなどを行い、各種事業の周知、地域住民の福祉に関する意識向上に努めた。

開催日	開催地区	開催場所	内容	参加者
4/24	平良地区	平良市民センター	安心してこの地域で暮らし続けるために	28人

[平成29年度重点的に取り組む事項]

- ・廿日市地域で「福祉の会」を1か所立ち上げる。
→平良地区で、「福祉をすすめる会」を立ち上げた。
- ・市地域政策課と連携しながら、これまで接点のなかった地区へのアクセスと地域の福祉ニーズの掘り起こしを行う。
→市の庁内連携会議の「業務連携会議」に参画し、「地域福祉カルテの作成」プロセスに関わることで、市と連携して地域に働きかけることができた。

基本目標（４） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

1 不登校・ひきこもり支援事業【重点】（廿日市 自主・共募 432千円）

安心して自由な時間を過ごしてもらい、元気を取り戻してもらうことを目的として、「不登校・ひきこもりの子どもの居場所、ひきこもりの若者のサロン（以下サロン）」を、毎週火曜日に開催した。自立への一歩として、月1回はクッキングの日とし、簡単にできる調理を行なった。このサロンは、不登校・ひきこもり支援ボランティア「かたつむり」に協力依頼し、使用済み郵便切手の整理などのボランティア活動にも取り組んだ。

また、不登校・ひきこもりの子どもや若者の家族が相談できる場である「親の会」も継続的に開催した。

(1) 親の会の開催

13回開催 延べ参加者 119人（昨年度69人）

(2) 居場所の開催

毎週火曜日開催 延べ参加者数 100人（昨年度162人）

延べボランティア参加者 192人（昨年度162人）

(3) 講演会・学習会の開催

開催日	内 容	実施場所	参加者
2/18	「不登校・ひきこもりが終わるとき」 講師：ヒューマン・スタジオ 代表 丸山 康彦さん	あいプラザ	78人
3/11	「『教育機会確保法』で子どもたちの『学び』はどう変わったか」 講師：東京シューレ 代表理事 奥地 圭子さん	あいプラザ	58人

(4) 親の会通信の発行

発行なし。

[平成29年度重点的に取り組む事項]

- ・ホームページなどを活用し親の会や居場所のPRを行う。
→ホームページやあいとぴあ、西広島タイムスなどで周知を行なった。
- ・教育委員会（SSW）やNPO法人、生活支援センターなど関係機関との連携を図る。
→子ども相談室と情報共有を行なった。
- ・生活支援センターと連携をとりながら、ひきこもり支援の講演会・学習会を開催する。
→生活支援センターに講演会周知を依頼した。

【佐伯地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

1 ボランティアセンター活動推進事業（自主・共募315千円）

- (1) ボランティア調整（派遣）及び活動支援
ボランティアに関する相談に応じ、ボランティアの調整（派遣）と活動支援を行なった。
- (2) れすとはうす「花かご」の管理運営
世代間交流やサロン開催、文化活動、相談活動等、ボランティア活動の拠点施設として、管理運営を行なった。また、年1回、花かごパンフレットを発行した。

【れすとはうす「花かご」利用実績】 ()内は前年度実績

開館日数	内 容	来館者
213日 (211日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動（おもちゃの会、手話でおしゃべり、おはなし会、あけぼの会、リフレッシュクラブ） ・ふれあいサロン（たまてばこ、ちゅうりっぷの会、おしゃべり広場、放課後サロンぶどう、れもんの会） ・文化・健康活動（パッチワーク、牛乳パック工作、編み物、楽彩クラブ、リフォーム手芸、健康体操、コミュニケーション麻雀、100歳体操） ・行事（草抜き&茶話会、花植え、やさい市、フリーマーケット等） 	延べ2,706人 (2,496人)

- (3) ボランティア連絡協議会「ひまわり会」運営連絡会の開催 年2回
- (4) ボランティア養成講座の開催
ボランティアやサロン世話人、関心のある人を対象にボランティアの理解を深め、今後の活動の幅を広げるための講座を開催した。

開催日	内 容	参加者
11/20	ボランティアきっかけ講座&ヨガ 講師：永田 厚子さん（私のボランティア活動） 楠田 泰久さん（ヨガ講師）	13人
3/1	ボランティア養成講座 ～すぐに役立つレクリエーション指導～ 講師：吉岡 俊昭さん（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校）	31人

- (5) ヤングボランティアスクールの開催
年間を通して、ボランティア活動に関心のある中・高・短大・大・専門学生を対象にボランティア活動、交流、体験等を行なった。

開催日	内 容	参加者
7/29	「水まつり」でのバザー、公衛協の手伝い等	15人
7/30	「わんぱく旅行事前交流会」	2人
8/9	「さいきせせらぎ園夏まつり①」の手伝い	2人
8/10	「さいきせせらぎ園夏まつり②」の手伝い	3人
10/18	「みかンデイキャンプ」障がい児の付添・見守り	3人
10/22	「心と心のハーモニーフェスタ」の手伝い、ステージ発表	63人
11/25	「わんぱく旅行バスハイク」障がい児・者の付添・見守り	3人

12/17	「みかんクリスマス会」障がい児の見守り	5人
夏休みに小学生を対象とした福祉施設との交流会「ふれあい探偵団」を開催した。		
開催日	内 容	参加者
8/5	福祉施設（広島ひかり園）との交流：手提げ袋に藍染め	10人

2 障がい児・者福祉支援事業 (自主 75千円)

(1) 障がい児地域支援システムの構築

関係機関と連携し、未就学から学童期それぞれのライフステージで障がいのある子どもたちに、どのような支援や関わりが必要なのかを協議し、当事者やその家族に対して活動支援を行なった。

(2) わんぱく旅行実行委員会への支援 (共募 709千円)

障がい児・者の社会参加の促進、保護者の交流・情報交換の場として、旅行や交流会を実施した。

開催日	内 容	実施場所	参加者
5/19	第1回実行委員会 (H28 事業報告及びH29 事業計画)	佐伯社会福祉センター	役員等 : 12人
7/30	交流会&学習会 ①ボランティア・参加者の顔合わせと交流(料理・ゲーム) ②療育相談と学習会 講師：賀茂精神医療センター 療育指導室 元山 淳さん	津田市民センター	当事者 : 8人 家 族 : 9人 ボランティア: 19人
8/19～ 8/20	「わんぱく旅行(宿泊)」 ・出雲ゆうプラザ ・しまね海洋館アクアス	島根県 (出雲市・浜田市)	当事者 : 10人 家 族 : 14人 ボランティア: 18人
11/16	第2回実行委員会 (H30 事業計画；旅行のあり方、やってみようことなどを協議)	佐伯社会福祉センター	役員等 : 8人
11/25	「わんぱく旅行(日帰り)」 ・平田観光農園 (リンゴ狩りとアップルパイ作り)	広島県三次市	当事者 : 9人 家 族 : 10人 ボランティア: 15人

3 精神障がい者福祉支援事業 (共募 26千円)

(1) 当事者支援の実施

精神保健福祉サロン「ちゅうりっぷの会」活動支援を行なった。また、当事者家族のおしゃべりサロン「こぶし会」定例会に出席して活動支援を行なった。

(2) ボランティア養成

精神保健福祉講座の開催

開催日	内 容	実施場所	参加者
3/9	テーマ：こころの病気の理解と支援 (相談事業所の活動について) 講 師：相談支援事業所エスペランサ 精神保健福祉士 吉田 鈴さん	津田市民センター	27人

4 地域のつどい・サロン支援事業 (市域全体予算として 1,747千円)

(1) サロン連絡会議の開催

ア 第1回サロン連絡会議 (6/7)
レクリエーショングッズ体験会 13人

イ 第2回サロン連絡会議 (3/1)
講座：サロン講座「すぐに役立つレクリエーション指導」
講師：トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 吉岡 俊昭さん
参加者：31人

(2) ふれあいサロン助成金交付 5か所

(3) 音楽サロン「オルゴール」浅原・友和・玖島・津田各地域で毎月1回開催

開催日	実施回数	実施場所	参加者
毎月第1月曜日	11回	浅原市民センター (共催行事)	延べ111人
毎月第2金曜日	12回	友和市民センター (共催行事)	延べ393人
毎月第3水曜日	12回	玖島市民センター (共催行事)	延べ141人
毎月第4金曜日	12回	津田市民センター (共催行事)	延べ266人

※ 津田市民センターでは津田保育園児の参加による世代交流「ひまわり日和」でのサロンの活動状況などの広報活動

(4) 未就園児を育てる保護者と子どものサロンへの支援

佐伯・吉和子育てネットワーク会議に参画し、子育て支援活動を行なった。

(5) 小地域のお茶の間づくり事業の推進 (3年目) 【重点1】

県社協が実施するあんしんサポートリーダー研修への参加を促し、お茶の間サロン運営の支援を行なった。

- ・お茶の間サロン「花かご」のハード面・ソフト面の整備
- ・県社協主催の「あんしんサポートリーダー研修」への参加1回目は2人、2回目は1人のボランティア
- ・世話人会議 (毎月1回) に参加
- ・先進地訪問研修 呉市お茶の間サロン「和の家」の調整及び随行

(6) レクリエーショングッズの貸出し (103件)

<p>[平成29年度重点的に取り組んだ事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「れすとはうす花かご」を活動拠点に、福祉活動実践者を「あんしんサポーター」に位置づけ、地域の支えづくりの仕組みを作る。また「あんしんサポートリーダー」やボランティアが主体になり、サロンが開催されていない地域へ出掛け、出前サロンを実施していく。 →「れすとはうす花かご」を活動拠点に、ボランティアセンター機能や福祉活動実践者を「あんしんサポーター」に位置づけ、お茶の間サロン「花かご」で、人と人とのつながりを大切に地域での見守り、支え合い活動に取り組んだ。 →「あんしんサポーター」と協議連携し、お茶の間サロンの常設化に取り組み、新たに2グループが毎月1回「れすとはうす花かご」で活動を始めた。 →過疎が進みサロンが開催されていない小集落に民生委員児童委員などの関係機関と調整し、浅原市野・中道の両集落へ出前サロンを開催した。 →サロンの重要性や地域の人には地域で見守り、支え合うことの大切さ等を改めて考えていただけるように連絡会議やサロン講座を企画・開催した。
--

基本目標（２） 組織（主体）の意識や活動を進化させます

1 地域福祉活動事業（自主 171千円）

(1) 福祉委員活動推進事業の実施

地域住民と協力して福祉活動を実践し、助け合いのネットワークを進めるため、福祉委員活動を推進した。

実施者	福祉委員：105人 取りまとめ：39人
福祉委員会議	地域の現状や福祉課題を把握するため開催
内容	4/25 ①玖島地区 ②友和地区 4/26 ③浅原地区 ④津田四和地区 ⑤全地区合同 議題：福祉委員活動及び日赤・社協会費募集について (参加者延べ38人)
	9/26 ①浅原地区 ②津田四和地区 9/27 ③玖島地区 ④友和地区 ⑤全地区合同 議題：日赤活動資金・社協会費募集状況及び共同募金活動について (参加者延べ30人)
その他の活動	地域のサロン、敬老会、福祉まつりなどの取組みへの協力や民生委員児童委員と連携したニーズ把握

(2) 福祉施設等連絡会の開催

佐伯地域での施設間の交流・連携を図り、共通の問題を取り上げ、今後の取組みについて検討した。また、佐伯地域ケア会議との連携に努めた。

開催日	内容	参加団体数
6/2	平成29年度の取組み、ヤングボランティア、施設の現況報告等について協議 親睦会を兼ねて、「心と心のハーモニーフェスタ」、施設のまつり等について協議	10
11/15	「心と心のハーモニーフェスタ」の反省会	10

※佐伯地域ケア会議（毎月第4水曜日）参加

(3) 広報啓発活動の実施

奇数月月上旬、佐伯地域の福祉情報紙「ひまわり日和」を発行した。

(4) 過疎地域における福祉活動とその関わり **【重点】**

関係機関との連携により、過疎地域における福祉活動の活性化を図った。

<p>[平成29年度重点的に取り組む事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐伯支所をはじめ、民生委員児童委員協議会や地域の福祉施設など関係諸機関と連携し、過疎地域における福祉問題やニーズを探りながら、各地区における社会福祉活動事業を推進させる。 →小地域でのささえあいのネットワークづくりの推進を図った。 →浅原市野・中道など過疎が進みサロンが開催されていない小集落への出前サロンの開催や生活支援体制整備事業での第3層協議体づくりを実施した。

基本目標（3） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

1 地域福祉活動事業（基本目標（2）－1 再掲）

(1) 広報啓発活動

奇数月月上旬、佐伯地域の福祉情報紙「ひまわり日和」を発行した。

2 心と心のハーモニーフェスタ（団体助成事業：自主・共募 808千円）

実行委員会形式で実施し、53団体が参加した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
10/22	さいき文化センター	約1,200人	200人

- ・ ささえ愛ネットはつかいち（廿日市・佐伯・大野支部）の協力により、手話・点訳の体験コーナーを設置した。同時に、ボランティア活動及びサロン活動を紹介した。
- ・ 佐伯地域の社会福祉施設などが参加し、市民と交流ができた。
- ・ 佐伯中学校吹奏楽部やソーラン部による協力を得て、ステージ発表を行なった。
- ・ 佐伯高等学校生徒会による総合司会で、ステージ発表や参加団体のインタビューなどを行い、会場全体を盛り上げることができた。

【吉和地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

1 (吉) ボランティアセンター活動推進事業 (吉和：市補助 38千円)

ボランティア活動を行う際にけがや病人が発生した場合に備え、救急法基礎講習会を開催した。

日時	内 容	協働団体	参加数
8/5	救急法基礎講習	ボランティア吉和	12人

2 地域のつどい・サロン支援事業 (市域全体予算として 1,987千円)

「すこやかプラザまつり」での活動紹介等のパネル展示や社協だより広報誌「ぬくもり」(吉和地域全戸配布)紙上でのサロン参加者の募集、活動報告などの広報活動やレクリエーション用具貸出等、吉和地域のサロンの支援を実施した。

開催日	サロン名	内 容	回数	参加者
毎週金曜日	囲碁のつどい	囲碁	33回	83人
隔週月曜日 ただし冬季は 毎週月曜日	カラオケサロン	カラオケ	28回	172人
第2水曜日 ただし冬季は 毎週水曜日	よりあいサロン	手芸	11回	30人
冬季のみ 毎週水曜日	よしわ ふれあいサロン	冬期の閉じこもり防止を 目的にしたカラーリング 等の実施	11回	184人

基本目標（３） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

1 すこやかプラザまつり (共募 25千円)

「吉和文化祭」と同日開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
11/4	吉和福祉センター (すこやかプラザ)	約200人	6人

- ・支所、地域包括支援センター、よしわせせらぎ園、廿日市人権擁護委員、ヘルスマイト、健康はつかいち21、廿日市市消費生活センター、廿日市市吉和公衆衛生推進協議会及びボランティア吉和と協力してスタンプラリー等を実施した。

基本目標（４） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

1 多機能サロン「すこやかサロン」実施事業【重点】（自主・共募 432千円）

高齢者サロン、福祉作業所、障がい者デイサービス、子育て中の親子の行き場といった多目的な要素を併せ持ったサロンを運営することで、地域や自宅で孤独感を感じず、また心身ともに健康な生活ができる場づくりを行なった。

開催回数	開催場所	内 容	参加者
月 3 回 (延べ 28 回)	吉和福祉センター他	ラジオ体操/折り紙/血圧測定/食事作り/ パステルアート/DVD 鑑賞/散歩/文化祭作 品準備及び見学/書き初めなどの季節の行 事/スポーツ体験 他	延べ 216 人

2 知的障がい者生活訓練教室開催事業（市委託 310千円）

日常生活上必要な訓練・指導、社会参加の促進や生きがいつくりを行なった。

開催日	内 容	場 所	参加者
4/4	社会参加 ・ボランティア吉和とアルミ缶の整理及びレク リエーション	吉和福祉センター	18 人
5/9	社会参加 ・子育てサロンと合同ヨガ教室、茶話会	吉和福祉センター	9 人
6/27	生活訓練 ・食事作り、レクリエーション（七夕飾り）	吉和福祉センター	6 人
7/11	生活訓練 ・食事作り、レクリエーション	吉和福祉センター	7 人
8/26	交流 ・ボランティア吉和交流会に参加	吉和福祉センター	35 人
9/3	社会参加 ・障がい者スポーツ大会に参加	廿日市市スポーツ センター	19 人
10/3	外出訓練、社会参加 ・グラウンドゴルフ、魅惑の里で食事	第 1 集会所ほか	7 人
11/5	外出訓練、社会参加 ・すこやかプラザまつりでのコーナー出店	吉和福祉センター	9 人
11/14	生活訓練 ・食事作り、レクリエーション	吉和福祉センター	7 人
11/21	生活訓練 ・食事作り、ビデオ鑑賞	吉和福祉センター	5 人
11/28	生活訓練 ・食事作り、レクリエーション	吉和福祉センター	6 人
12/12	生活訓練 ・食事作り、クリスマスの準備	吉和福祉センター	6 人
12/26	生活訓練 ・食事作り、レクリエーション	吉和福祉センター	7 人

1/16	生活訓練 ・食事作り、書道、正月遊び	吉和福祉センター	7人
1/30	生活訓練 ・食事作り、節分	吉和福祉センター	6人
2/20	生活訓練 ・食事作り、ビデオ鑑賞	吉和福祉センター	8人
2/27	生活訓練 ・食事作り、レクリエーション	吉和福祉センター	10人
3/13	生活訓練 ・食事作り、レクリエーション	吉和福祉センター	6人
3/20	外出訓練、社会参加 ・魅惑の里で食事、レクリエーション	魅惑の里ほか	10人
3/27	生活訓練 ・食事作り、レクリエーション	吉和福祉センター	6人

延べ回数：20回 延べ人数：184人

3 障がい者スポーツ教室開催事業 (市委託 40千円)

障がい者スポーツを通じて障がい者の自立と社会参加を図るとともに、小学生や地域の人と、交流の場づくりに努めた。

開催日	内 容	当事者	小学生	その他
8/24	車いすバスケ・吹き矢・車いすバトミントン 講師：障がい者スポーツ指導員 渡部 安彦さん	4人	14人	11人

4 障がい者地域社会交流事業 (吉和 共募・市補助 136千円)

障がい者手帳保持者を対象とし、一人では外出することが難しい障がい者に対して外出支援、社会参加目的とした「日帰りバスハイク」を実施した。

開催日	場所	対象者・家族	ボランティア・職員
10/20	広島市 ・おりづるタワー ・マリホ水族館	9人	5人

5 いきいき活動推進事業 (自主・共募 419千円)

中山間地域・過疎地域に見合った地域課題やニーズから、地域への取組みへと発展させるために市と連携し様々な事業を展開した。

(1) あつまろう家 (ひとり暮らし等高齢者懇談会) 実行委員会への助成

ひとり暮らしなどの高齢者の集う場づくりのため、民生委員児童委員・ヘルスマイト・コミュニティよしわ・ボランティア吉和・女性会と協働し実施を支援した。

開催日	場所	内 容	参加者
5/9	吉和福祉センター	あつまろう家実行委員会 ・平成 29 年度の活動計画 ・平成 28 年度の事業報告・反省事項ほか	7 人
6/7	吉和福祉センター	あつまろう家献立会議 ・豆ごはん・白身魚のフライ・味噌汁 ・きゅうりと切り干し大根の中華和え ・ヨーグルトデリー	4 人
6/29	吉和保健センター	試食会 ・上記メニューの試作	5 人
7/13	開催： 吉和福祉センター 調理： 吉和保健センター	あつまろう家開催 ・廿日市警察署山田巡査部長による「特殊詐欺」について ・益本住夫理事長による「ほっと吉和」の紹介 ・地域防災相談員、三浦勇二さんによる「防災」について	64 人 (対象者 35 人、協力者 29 人)
12/14	吉和福祉センター	あつまろう家実行委員会 ・前回の振り返り ・次回の計画について打合せ	6 人
1/17	吉和福祉センター	あつまろう家献立会議 ・巻きずし・豚肉の甘辛煮・ほうれん草の白和え・すまし汁・杏仁豆腐	7 人
2/16	吉和保健センター	試食会 ・上記メニューの試作	6 人
3/22	開催： 吉和福祉センター 調理： 吉和保健センター	あつまろう家開催 ・廿日市警察署山田巡査部長による「特殊詐欺」について ・歯科衛生士による「かみかみ 100 歳体操」について ・市包括支援センターさいきによる「100 歳体操」	64 人 (対象者 36 人、協力者 28 人)

(2) 生涯暮らし続けられる吉和地域を考える福祉座談会等の支援

吉和地域に生涯暮らし続けるために、地域住民を中心に行政、専門職等の協働による地域包括ケアシステムづくりを推進していくため、下記のとおり会議等を行なった。

	開催日	参加者	内 容
1	4/28	20 人	・見守り事業の説明について
2	6/13	18 人	・施設の部屋の名称について ・開所式について
3	6/22	20 人	・研修（内容：救急業務、見守り業務）
4	7/26	76 人	・吉和地域高齢者福祉施設開所式
5	9/7	35 人	・役員会

(3) 子育てサロンの開催

吉和支所市民福祉グループ・市民センターと共催して、知的障がい者生活訓練教室開催事業・すこやかサロンと同時開催した。

開催日	内 容	参加者
5/9	ヨガ教室	9人
10/24	パステルアート	5人
1/17	書初め	7人

(4) 福祉車両の貸出し

地域の福祉団体等に「たすけあい号」の貸出しを行い、自主活動を支援した。また、安全に車両を利用していただくために適切な車両管理を行なった。

貸出実績：71件

(5) 社協だより「ぬくもり」の発行

毎月1日、「ぬくもり」を発行し全戸配布した。これによりボランティア募集、地域活動の予定及び活動報告等の情報を地域に発信した。

(6) 葬儀用具の貸出し

自宅や集会所等の地元で葬祭を執り行う場合に、社協が所有する葬祭用具一式の貸出しを行なった。

貸出実績 5件

[平成29年度重点的に取り組む事項]

- ・NPO法人「ほっと吉和」の認可後も、「生涯暮らし続けられる吉和地区をつくる会」を、吉和地域の社会資源として存続させる。社会福祉協議会は「生涯暮らし続けられる吉和地区をつくる会」の後方支援（情報収集・情報提供・啓発研修など）を行う。
→調整会議（3回）、研修会（1回）等の後方支援を行い、吉和地域に新たな社会資源として、自主活動できるようになった。

【大野地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

1 ボランティアセンター活動推進事業（自主 190千円）

(1) ボランティアセンターの機能強化

ボランティア活動の推進拠点である「ボランティアセンター」の機能強化を図り、ボランティア（個人及びグループ）が活動しやすいよう、相談・需給調整・養成・広報紙の発行など条件整備を進めたほか、「ボランティアニュース」を年6回（偶数月1日）発行し、大野地域の全戸に配布した。

(2) ボランティア学園の開催

小学生全学年を対象として募集し、多くの人との交流・体験を通し、福祉・ボランティアに対する意識を高めた。

また、ボランティア連絡協議会や地域内の福祉施設、中学・高校生徒会の参画により、世代間を越えた交流を促した。併せて、障がい者団体や家族会、中学生などと協働で、「小さな夏まつり」のスタッフとして活動できた。

開催日	内 容	参加者
7/26	入園式 手話体験	16人
7/27	音訳・点訳・アイマスク体験	15人
8/7	施設訪問介護体験（Aグループ：洗心園）	8人
8/8	施設訪問介護体験（Bグループ：アダージョ）	9人
8/22	「小さな夏まつり」への参画	14人

(3) 児童・生徒が取り組む地域社会貢献活動に対する助成金の交付や活動支援

ア 空飛ぶ車いす活動の支援

宮島工業高等学校生徒会による、故障した車いすを修繕して開発途上国に提供するボランティア活動「空飛ぶ車いす活動」を始めとする地域貢献活動を支援した。

イ ビッグフィールド大野隊の活動支援

小・中・高校生で構成された市民活動団体「ビッグフィールド大野隊」の地域福祉活動を助成した。

ウ おおの健康福祉フェスタへの協力

- ・宮島工業高等学校インテリア科による「手作りおもちゃコーナー」
- ・宮島工業高等学校機械科による「バッテリー電車コーナー」
- ・大野東・西小学校児童と民生委員児童委員と協働で食べ物コーナーを出店

エ 小さな夏まつりの実施

「小さな夏まつり」を宮島工業高等学校、中学校生徒会と障がい児者団体の協働企画で実施した。

オ 大野ボランティア連絡協議会との協働

大野ボランティア連絡協議会と協働で以下の取組みを実施した。

(ア) ボランティアのつどい

開催日	場 所	内 容	参加者
9/5	大野支所	学習会「傾聴のコツ」 講師：春日キスヨさん	31人
2/27	廿日市市議会 議場	議会一般質問の傍聴	10人

(イ) ボランティア体験学習

開催日	場所	内 容	ボランティア
4/27 6/9 7/14	大野西 小学校	大野西小学校 6 生 (95 人) のボランティア体験学習への協力 (手話・点訳・音訳・ガイドヘルプ)	延べ 32 人
8/29 9/13 9/27 10/12 12/26 1/26	大野東 小学校 福祉保健 センター	◎ボランティア活動者の想いを発表 ◎大野東小学校 3 年生 (130 人) のボランティア体験学習 (手話・点訳・ガイドヘルプ) への協力	延べ 50 人

カ 関係団体との協働

関係団体と協働で大野東小学校 3 年生の介護学習に協力した。

(ア) 介護体験学習

開催日	場所	内 容	ボランティア
12/26 1/26	大野東 小学校 大野 福祉保健 センター	◎ボランティア活動者の想いを発表 (2 人) ◎大野東小学校 3 年生 (130 人) の介護学習への協力 ・車イス…「いもせ聚楽会」(4 人) ・ガイドヘルプ…音訳「エコー」(6 人) ・工作…県介護福祉士会 (3 人) ・健康体操…万年青会女性部 (6 人)	延べ 21 人

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・児童、生徒が取り組む地域貢献活動を、地域住民や関係団体と一緒に推進する。
→事前学習で活動者の気持ちや顔を知るカリキュラムを増やし、学習への理解度を上げた。

2 障がい児・者地域生活支援事業 (自主・共募 120 千円)

(1) 障がいのある子どもを育てる家族の「おしゃべり会」を開催

開催日	開催場所	内 容
4/18・6/14 9/13・11/15 1/24・3/7	大野福祉 保健センター ・大野支所	障がいのある子どもを育てる家族が自由に集い、お互いの子育てについての情報交換や交流の場を提供。

(2) 当事者活動の支援

当事者組織と連携し、本人たちが豊かに生きていける地域づくりを目指す取組みを実施した。

開催日	実施項目	内 容
5/13・7/15 9/16・11/25 1/27・3/3	職場体験実習	廿日市市高齢者ケアセンターの協力で、一般就労の職場体験を行なった。体験者一人に一人「ジョブコーチボランティア」が付き添い、見守り及び声かけを行なった。
5/19・10/13 3/23	喫茶「ぽっぽ」	高齢者ケアセンター内の喫茶「ぽっぽ」で昼食を提供。

7/1	買い物体験	学生ボランティア講座で学生ボランティアと買い物体験をした。
7/25・11/21 1/27	鍋奉行	高齢者の集い「サロン阿品」での昼食作りの連絡調整を行なった。
7/22	ボランティア活動	2区ふれあいサロン（さわやか会）でのカレー作り。
9/15・12/13	お化粧品教室	ヤクルト化粧品の協力を得て、阿品清鈴園の入所者へのお化粧品ボランティアをした。
12/16・2/17	ネイル体験	1回目は学生ボランティア講座で学生ボランティアと、2回目は地域ボランティアとネイル体験を行なった。

(3) 大野障がい者団体連絡協議会の支援

ア 会議への参加

会議に参加し、意見交換、活動の助言及び情報共有を行なった。

イ 小さな夏まつりの開催協力

障がい者との交流やふれあいの場として、大野障がい者団体連絡協議会、宮島工業高等学校、地元中学校等との協働により、8月22日に「小さな夏まつり」を企画・実施し、約300人（内ボランティア56人）が参加した。

ウ 交流会の開催協力

障がい者の交流会の開催にあたり、関係各所との調整等、さまざまな形で協力した。

(4) 精神保健福祉ボランティアの発掘・育成

ア 本人やその家族の自主活動や自主活動グループの組織化を支援

毎月実施の「精神障がい者ソーシャルクラブ（プラム）」の取組みに対して、保健師と連携をとりながら協力した。

イ 精神保健福祉ボランティアの育成、発掘

精神障がい者等への理解を深めるために、市民を対象としたボランティア講座として、対人援助技術や社会資源を学ぶための施設見学を実施した。

回	開催日	内 容	参加者
1	10/19	榊巣だち呉事業所（多機能型事業所）を見学し、障がい者の就労の場と地域の関わり方について学ぶ	14人

(5) ソーシャルクラブ「プラム」への協力

ボランティア活動の場を確保するため、ソーシャルクラブ「プラム」へのボランティア調整を行なった。

回	開催日	内 容	ボランティア
1	4/18	お弁当を作ってお花見	3人
2	5/16	外出（宮島）	4人
3	6/22	交流会（佐伯）	4人
4	7/18	絵手紙	5人
5	9/19	クリスマス会飾り作り、調理	5人
6	10/19	外出（呉 巢立ち作業所）	5人
7	11/21	外出（広島城）	3人
8	12/22	クリスマス会	5人
9	1/16	初詣、書初め大会	3人
10	2/13	映画	3人
11	3/20	調理実習	5人

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・活動を支援するボランティアの登録者を増加させる。
→学生ボランティア講座へ当事者活動を組み込むことで、ボランティアの登録につながった。

3 地域のつどい・サロン支援事業 (市域全体として 1,747 千円)

地区福祉部会・老人クラブを主体とした高齢者サロンの推進や、当事者による「セルフヘルプサロン」(当事者による相互支援サークル)の取組みを支援した。

さらに県社協指定事業の「社協型活動総合推進事業(小地域のお茶の間づくり)」について、各区の取組みを支援した。

(1) ふれあいサロン(各区)に助成金交付 11か所

(2) セルフヘルプサロンへの活動支援

- ・大野ソーシャルクラブ「プラム」(精神保健福祉サロン)への協力(再掲)
- ・障がい児を育てる家族の会「おしゃべり会」を開催

(3) ふれあいサロン活動概況調査 年1回

(4) 小地域のお茶の間づくり事業の推進(県社協委託事業)

県社協が実施するあんしんサポートリーダー研修への参加を促したほか、各区でのお茶の間サロンの運営(助成を含む)及び立ち上げ支援を行なった。

ア 指定状況

3年目 第4区・第10区

イ あんしんサポートリーダー研修(県社協主催)参加者 延べ18人

ウ あんしんサポートリーダーフォローアップ研修(県社協主催)参加者 3人

エ レクリエーション用具の貸出 41件

(5) サロン世話人のサロンの開催(32人)

(6) サロンの活動紹介「サロン訪問記」をホームページに掲載した。

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・県社協の「地域のお茶の間づくり」事業の指定終了地区に対する支援継続(4地区)
→県社協の「地域のお茶の間づくり」事業の指定終了地区に対し、2年間助成する延長支援を実施した(年間15,000円)。
- ・レクリエーショングッズの貸出し促進を図る。
→レクリエーションカタログを更新し、サロンや地域活動への周知を行なった。

基本目標(2) 組織(主体)の意識や活動を進化させます

1 ふれあいのまちづくり推進事業【重点】(共募 5,245 千円)

お互いが「気かけあえる」「支えあえる」地域づくりを目指し、地区の福祉部会をはじめ、様々な団体協議や情報交換を行う大野地域福祉推進委員会の運営等を行なった。

さらに、大野地域福祉活動を住民に周知していくため、広報紙(ふれまちだより)の発行や、イベント(おおの健康福祉フェスタ)を企画した。

(1) 大野地域福祉推進委員会の運営

ア 地域福祉推進委員会の開催

開催日	会場	内 容	参加者
7/11	大野支所	・大野地域福祉推進委員の委嘱について ・平成 28 年度地域福祉推進事業報告 ・平成 29 年度地域福祉推進事業計画 ・生活支援体制整備事業について ・大野地域福祉推進研究協議会について	22 人
1/31	大野支所	・課題を抱えている世帯の現状について ・大野地域福祉推進研究協議会について ・地域のつどい・サロンについて	21 人

イ 地域福祉推進研究協議会の開催

開催日	会場	内 容	参加者
3/3	大野 福祉保健 センター	「地域包括ケアシステムから地域共生社会へ ～10年、20年先を見据えた 住民参加の福祉のまちづくり～」 講師：ローカリズム・ラボ 代表 井岡 仁志さん	115 人

(2) 個別課題解決に向けた取組み

ア 関係機関との情報共有

地区民生委員児童委員協議会定例会や地域ケア会議などの各種会議へ参加し、関係機関との情報共有に努めた。

イ 各担当者が、それぞれの地区と連携し、小地域での課題把握に努めた。

(3) 小地域ネットワークづくり

ア 各区との連携

地域福祉活動推進事業助成金や各区福祉活動事業費（一般会費総額の 70%）を助成した。また、各区及び地区民生委員児童委員協議会が行う訪問視察研修などの調整・同行などを通じて、区との連携に努めた。

イ お互いが気にかかけあえるための仕組みづくり

(ア) 環境美化活動（花いっぱい事業）

市民の交流と生きがいを目的に、市内の障がい者福祉施設で育てた花の苗を地区環境美化推進のために栽培・管理しながら福祉コミュニティの形成をめざした。

花苗配布日	品 種	数 量
5/25	サルビア、マリーゴールド、日々草、ペゴニア	2,550 個
10/26	パンジー、葉牡丹、ノースポール	2,550 個

(イ) 地区給食サービスへの助成

区福祉部会を主体とした互助の取組みとして、ひとり暮らし高齢者や障がい者世帯へ安否確認も兼ねて給食弁当を宅配する活動に対して、その経費の一部を助成した。

実施地区	回数	人数
第 2 区	10 回	336 人
第 5 区	8 回	153 人

ウ 福祉部会への支援

地域で行われている「ふれあいいいききサロン」「見守り活動」の実施主体となる福祉部会に対し助成を行なった。

(4) 広報・イベント等の実施

ア 広報啓発活動の実施

地域の福祉活動を広報する「ふれまちだより」を年6回（偶数月1日）発行し、大野地域の全戸に配布した。

イ おおの健康福祉フェスタの企画・実施

「福祉ふれあいまつり」と「健康を守る集い」を同日開催し、参加者全員が楽しみながら、福祉に関する正しい理解と認識を深め、自分の健康を増進する力を高めることを目的としたイベントを実施した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
10/1	大野体育館及び 大野市民センター周辺	約 1,500 人	200 人 ※前後の準備・撤収ボランティアを含む

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・地域福祉推進委員会を大野地域における生活支援体制整備事業の第二層協議体として位置付けていくための働きかけを行う。
→第三層協議体として先行的に取り組んだ大野第8区の動向を踏まえ、検討を進めていくことになった。
- ・地区環境美化活動での花苗の地区別配布数を見直す。
→平成 29 年度内での整理ができなかったため、平成 30 年度に引き続き見直しに取り組む。

基本目標（3） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

1 事務局運営事業（自主 901千円）

大野地域の福祉推進の拠点となる本会大野事務所を運営した。

[平成 29 年度重点的に取り組む事項]

- ・大野支所庁舎建替に伴う地域の福祉の窓口としての機能拡充に向けた検討を行う。
→大野支所地域づくりGと、新庁舎への事務所移転に向けた協議を継続的に持ったほか、各種事業に関する会議やイベントについても現庁舎を積極的に活用することで、移転後も庁舎が拠点となるイメージづくりに努めた。

基本目標（4） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

1 高齢者等移送サービス事業（共募 584千円）

通院や買物などの日常生活の利便向上や社会参加の促進を図るため、交通不便地域を含む大野地域全域を対象として、巡回車両を運行した。

【巡回車両の運行・利用実績】（毎週火曜日、第2・4木曜日 午前・午後各2便の運行）
（ ）内は前年度実績

午前1便	午前2便	午後3便	午後4便
30人(30人)	57人(59人)	30人(22人)	114人(93人)

【宮島地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

1 地域のつどい・サロン支援事業

宮島地域

サロン名	開催日	開催場所
サロンにきんさい	毎月2回 第1・3水曜日	宮島市民センター
すずめ会	毎月11・25日	杉之浦市民センター

基本目標（３） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

1 地域ふれあいフェスタ（団体助成：自主・共募 129千円）

福祉関係団体・ボランティアなどと協働し、「手作り感」を意識して開催した。福祉関係団体の活動を展示コーナーで紹介することにより、相互理解を深めた。

開催日	会場	来場者	ボランティア
8/4	宮島福祉センター	約250人	125人

基本目標（４） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

1 高齢者自立支援事業【重点】（自主・共募 211千円）

主に70歳以上のひとり暮らし高齢者や生活に不安を感じる高齢者世帯を対象に、関係機関と協働し、地域見守り活動も兼ねて実施した。

(1) 高齢者給食サービス事業の実施

宮島町食生活改善推進協議会と協働し年6回、3つの地域に会場を分けて実施した。

開催日	場所	対象者	参加者
4/18・6/20・7/18 10/17・1/16・2/23	中西集会所 宮島市民センター 宮島福祉センター	主に70歳以上の ひとり暮らし高齢者	延べ129人

(2) ひとり暮らし高齢者懇談会の開催

山口県東部ヤクルト販売と廿日市警察署から講師を招き、生活に必要な情報の提供を折りこみながら実施した。

開催日	場所	内 容	参加者
5/16	宮島市民センター	「大人の食育教室」 講師：山口県東部ヤクルト販売 協力：宮島町女性会	17人
12/19	宮島福祉センター	「特殊詐欺について」 講師：廿日市警察署 協力：宮島地区民生委員児童委員協議会	13人

(3) あんしんほっとコール事業の実施

ひとり暮らしに不安を抱える2人の高齢者世帯に対して、希望される曜日や時間に電話による定期連絡を行い、安否確認や見守り活動を実施した。

(4) 歳末みまもり事業の実施

ひとり暮らし高齢者、母子家庭世帯などを対象とした125世帯に、年末にお赤飯などを手渡しし、声かけを行なった。

[平成29年度重点的に取り組む事項]

- ・給食サービス、懇談会について、協力団体から対象者へ案内を配布しているが、各団体と連携を図り、参加者以外の情報を収集し、孤立発見につなげる。
→協力団体への対象者に関する情報の収集。参加の呼びかけを行なった。
- ・あんしんほっとコールについて、利用者の生活状況等の確認を行い、見守り活動を推進していく。また、当事業について、地域情報誌等で説明を行い、周知を図るとともに、利用者の増加につなげる。
→希望された曜日と時間に連絡を行い、安否確認と健康状態の把握を行なった。当事業について、地域の広報誌等により島民に周知した。

2 福祉コミュニティ支援事業 (自主・共募 12千円)

福祉コミュニティづくりを目的とした住民参加型の支援事業を実施した。

(1) 紙門松配布事業の実施

従来の門松等の虚礼を廃止し、資源保護などを目的に紙門松を配布した。

配布時期	配布世帯	配布枚数
11/29	871世帯	1,742枚

(2) 葬儀用具貸出事業

生活改善による葬儀の簡素化や地域コミュニティづくりのため、貸出事業を継続した。

貸出件数 0件

～円滑な事業推進体制のために～

「市民生活に即応した社協の仕事をどのように市民に提示できるか」、そうした基本認識の下で、計画目標を持った適正な執行管理を実現し、地域福祉の具現化を図るため、自立した「ありたい廿日市市の地域福祉の姿」の創出を目指した。

1 職員人材育成事業

職員の人材育成として、県社協主催の各種研修や関連団体等が開催するテーマ別の専門研修などに積極的に参加させるなど、市社協を担う人材の育成に重点を置いて実施した。

研修内容	参加人数
キャリア別社協職員研修（管理職・若手職員）	2人
業務課題の解決と実践研修（チームリーダーコース）	1人
中堅職員コミュニケーション研修	1人
福祉職員キャリアアップ研修（中堅職員コース）	1人
スーパーバイザー養成研修（基礎・応用）	1人
クレーム対応研修	3人
説明説得能力向上研修	3人
社会福祉法人決算研修	1人
コミュニティソーシャルワーク基本研修	2人
福祉施設の防災、災害時に役立つ地域との関係づくり研修	1人

2 法人運営

(1) 自主財源の確保

寄付・会費という地域福祉への参加・貢献の動機づくりと、会員に対する謝意を表するため、市社協の団体会員並びに賛助会員のお名前をあいプラザ正面入り口に掲示するなど、PR活動に取り組んだ。また、イベント時に会員勧誘をするなどその周知に努めた。

<会員・会費・寄付の状況>

区分	人数等	金額
一般会員（佐伯、大野）	10,915件	5,380,000円
賛助会員	332人	792,000円
団体会員	109団体	705,000円
寄付金	190件	5,411,769円

(2) 役員等の状況及び会議の開催状況

<役員等の状況>

理事	14人
監事	3人
評議員	28人

（平成30年3月31日現在）

ア 理事会

	開催日	議 題	出席状況
平成 29 年 第 3 回	6/12	(1) 平成 28 年度事業報告及び資金収支決算について (2) 職員就業規程の一部改正について (3) 役員等の報酬等に関する規程について (4) 理事及び監事の報酬等の総額について	14 人/15 人 (3 人)
平成 29 年 第 4 回	6/19	(1) 新役員候補者の承認について	13 人/15 人 (3 人)
平成 29 年 第 5 回	6/26	(1) 会長（理事長）の選定について (2) 副会長の選定について (3) 常務理事の選定について (4) 部会員の選出について	10 人/14 人 (2 人)
平成 30 年 第 1 回	2/9	(1) 職員出向規程の一部改正について (2) 平成 29 年度収支補正予算について (3) 評議員候補者の推薦について (4) 評議員選任等委員会の招集について (5) 平成 30 年第 1 回評議員会の招集について	12 人/14 人 (3 人)
平成 30 年 第 2 回	3/15	(1) 平成 30 年度事業計画及び資金収支予算について (2) 平成 29 年度収支補正予算について (3) 経理規程の一部改正について (4) 会長専決規程の制定について (5) 決裁規程の一部改正について (6) 組織規程の一部改正について (7) 理事交代に伴う後任理事候補者の承認について (8) 重要な役割を担う職員の選任について (9) 平成 30 年第 2 回評議員会の招集について	13 人/14 人 (3 人)
平成 30 年 第 3 回	3/27	(1) 職員就業規程の一部改正について (2) 常務理事の選定について	11 人/14 人 (3 人)

※出席状況の（ ）内は監事の人数

イ 正副会長会議

	開催日	議 題	出席状況
平成 30 年 第 1 回	2/9	平成 30 年第 1 回理事会の打合せ (理事会運営の情報共有)	2 人
平成 30 年 第 2 回	3/9	平成 30 年第 2 回理事会の打合せ (理事会運営の情報共有)	3 人

ウ 評議員会

	開催日	議 題	出席状況
平成 29 年 第 2 回	6/26	(1) 平成 28 年度事業報告及び資金収支決算について (2) 役員等の報酬等に関する規程について (3) 理事及び監事の報酬等の総額について (4) 理事の選任について (5) 監事の選任について	22 人/28 人 (3 人)

平成 30 年 第 1 回	2/19	(1) 平成 29 年度収支補正予算について	21 人/28 人 (3 人)
平成 30 年 第 2 回	3/27	(1) 平成 30 年度事業計画及び資金収支予算について (2) 平成 29 年度収支補正予算について (3) 理事交代に伴う後任理事の選任について	20 人/28 人 (3 人)

※出席状況の（ ）内は監事の人数

エ 監査会

開催日	内 容	出席状況
5/16・5/17	平成 28 年度資金収支決算に対する監査	2 人
5/18	平成 28 年度事業に対する監査	1 人
11/7・11/9	平成 29 年度上半期の事業に対する中間監査	1 人
11/8	平成 29 年度上半期の会計・財産状況に対する中間監査	2 人

オ 評議員選任等委員会

	開催日	議 題	出席状況
平成 30 年 第 1 回	2/14	(1) 評議員の選任について	3 人/4 人